

美作西部の拠点城郭

高田城探訪会

～戦国時代の山城講演会と登山会の開催～

- 日 程 2026 年 11 月 22 日 (日)
- 場 所 真庭市立中央図書館 (真庭市勝山 53-1)
- 定 員 先着 60 席
* 申し込みは不要です。
- 参加費 無料 * 資料代 300 円
- 講 師 森 俊弘 氏
(真庭市教育委員会生涯学習課参事)

第1部 山城講演会 * 申込不要

- ◇時間 9 時 30 分 受付開始
10 時～11 時 開会挨拶～講演
* 天候により山城登山会中止の場合は閉会挨拶
- ◇会場 真庭市立中央図書館 3 階 映像シアター
- ◇演題 中世山城「高田城」とその城下町

第2部 山城登山会 * 少雨決行

- ◇時間 13 時 受付開始
13 時 30 分～15 時 30 分 見学会
- ◇集合場所 真庭市中央図書館前
- ◇参加費 無料 (傷害保険加入はありません)
* 中央図書館の駐車場をご利用ください。
* 歩きやすい服装、靴、飲み物などをご準備ください。

主催／美作の中世山城連絡協議会
共催／篠向城を愛し城址を大切にする会
後援／真庭市・真庭市教育委員会
問合せ 事務局 長瀧 薫
電話 090-9418-7150

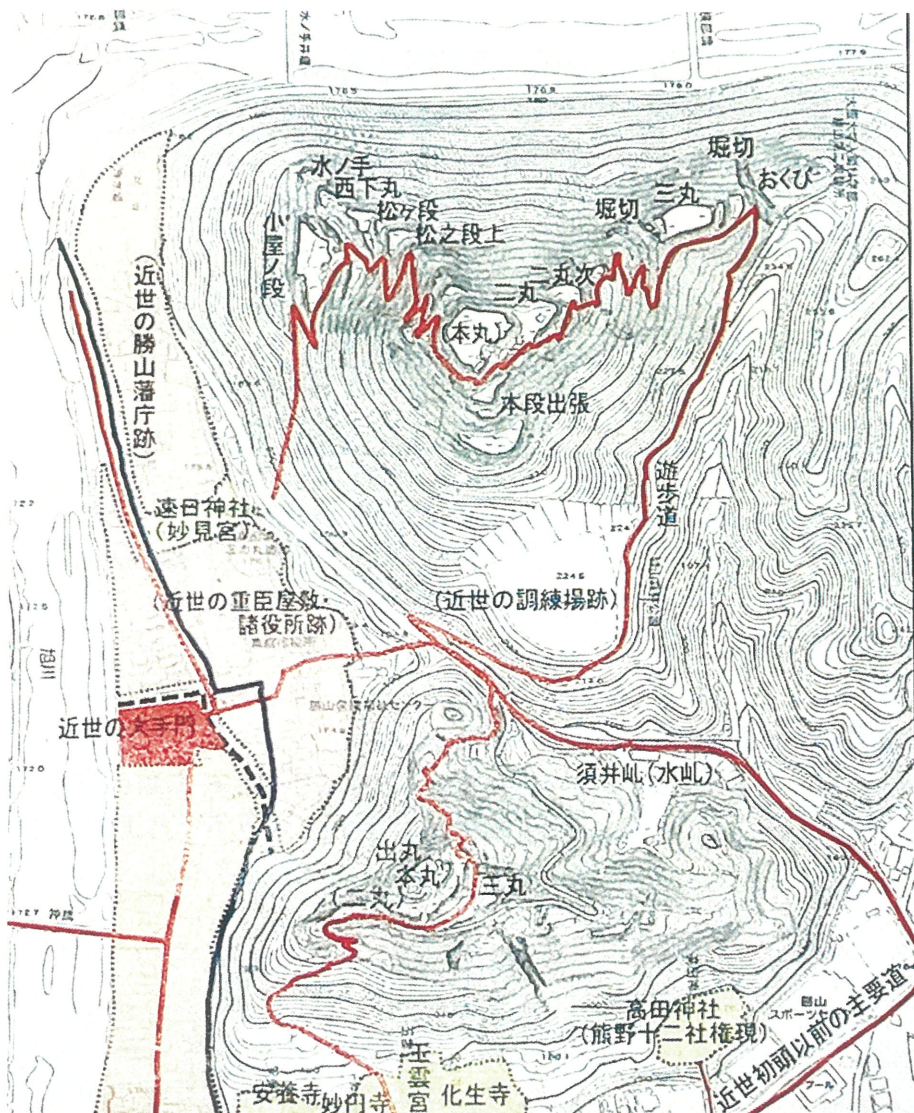
高田城とは 真庭市勝山

高田城は、真庭市勝山の町並みの背後にそびえる山城で、城山 (312 m) とその南に繋がる太鼓山 (260 m) に構えられていた。城主は高田庄を本拠とする国人三浦氏の当主貞連が最初の城主で、15 世紀末前後に築城されたと伝わる。三浦氏は尼子氏や毛利氏など近隣勢力と城の争奪戦を重ねた。

天正 3 年 (1575) に三浦氏が退去した後は毛利、宇喜多、小早川、森の各氏などが支城 (しじょう) として利用した。

その後、廃城となったが、明和元年 (1764) に新たに入部した勝山藩の三浦明次が城山の麓に藩庁を構え、山上でも城郭整備を進めようとしたが、未完のまま明治時代を迎えた。





頂上の本丸跡



尾首(おくび)の堀切

高田城の実測図

高田城は、北側の如意山(によいやま、城山、312メートル)と、南側の勝山(太鼓山、約260メートル)からなり、合わせて「大総山(おおつぶさやま)城」とも呼ばれていました。

山上では、山の尾根を削って平坦地とした多数の「曲輪(くるわ)」や、敵の侵入を防ぐ「堀切(ほりきり)」などで、城の守りを固めていました。

『真庭市指定史跡 高田城』2016 真庭市教育委員会より抜粋

城下町 勝山 散策メモ

○町並み保存地区 (岡山県指定第1号 1985年)

勝山は現在の岡山県下で江戸時代に城を置くことが許された4つの町の1つ。江戸・明治・大正期の町家が今もあり、武家屋敷や高瀬舟発着場跡など往時の歴史を伝えるたたずまいが各所に残っている。

町並み保存地区に指定された出雲街道沿いには、白壁や格子窓の商家や民家、なまこ壁の土蔵といった伝統的な建造物が並ぶ。各家に掛かる90余りの『のれん』は個性豊かで、町並みを美しく彩っている。2009年度には都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」(国土交通大臣賞)を受賞した。いま、「伝統的建造物群保存地区(伝建地区)」への取り組みが始まっている。

○高瀬舟発着場跡 2026年度選奨土木遺産へ認定

勝山から岡山まで旭川を利用して、米や木炭、薪などの物資や人を運んだ高瀬舟の発着場跡が町裏に残る。勝山は旭川の最上流の発着場で、全長約700㍍の石積みが発着場跡として現存している。



格子窓の建物などが残る町並み保存地区



全長700㍍にわたる石積の舟発着場